

落ち着きを見せる米金融不安と今後の焦点（上）



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米金融機関を巡る混乱は一旦収束か

3月に米金融機関が複数破綻したことで、米国では金融システム不安が高まる場面もありました。ただ米当局の迅速な対応もあり、こうした不安は一旦収束に向かっているようにみえます。

FRB（米連邦準備制度理事会）が最後の貸し手として提供する「連銀窓口貸出制度」を通じた銀行の借入残高は、米シリコンバレー銀行などが相次いで破綻した直後には1,529億米ドル（3月15日時点）にまで膨らみました（右上図）。しかしその後は減少傾向にあり、直近3月29日時点での残高は882億米ドルにとどまっています（同図）。複数の金融機関の破綻を受け、3月12日に導入された緊急融資枠の「バンク・ターム・ファンディング・プログラム」の借入残高との合計は29日時点で1,526億米ドルとなり、前週の1,639億米ドルから減少しました。これは米金融機関の流動性問題が最悪期を脱しつつあることを示唆しています。

ポイント② 米商業銀行の貸出姿勢が焦点に

その一方で米金融不安が高まって以降、金融機関からの預金流出が続いており、金融機関の貸出姿勢が今後厳しくなる可能性もあります。米商業銀行の預金残高は3月22日までの2週間で約3,000億米ドル減りました。とりわけ預金流出が目立つのが小規模商業銀行で、足元では預金流出の動きは一巡していますが、同2週間でみると1,900億米ドル超となっています（右下図）。

米当局による流動性供給によって米金融機関の破綻に歯止めがかかっていることはプラス材料といえます。ただ、預金流出により金融機関の貸出姿勢が厳しくなると、他の業界で資金繰り懸念が高まる可能性もあり留意が必要です。

米連銀窓口貸出制度の借入残高

